



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No.20 2005.1.5(No.2347)

第2560地区ガバナー / 横山 芳郎
会 長 / 渡邊 喜彦
会長エレクト / 小越 憲泰(クラブ奉仕A)
副 会 長 / 渡辺 勝利(クラブ奉仕B)
幹 事 / 五十嵐 寿一
S A A / 船越 正夫
会 計 / 荻根澤 隆雄

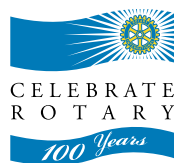
例会日 / 毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び事務局 /
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場 / TEL 34-3311
事務局 / TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(~はshiftを押しながら“へ”のキーを
押ししてください)

本日の出席会員数:68名中50名
先々週出席率:86.15%

【先週のメイクアップ】

[1.4] 三條北へ
・石橋育於さん、松谷昊吉さん



「ロータリーを祝おう 100年の歩み」
2004~2005年度国際ロータリーのテーマ



ドルチェローザ

会 長 挨拶

渡邊喜彦会長



みなさん新年あけましておめでとうございます。

昨年の、相次ぐ災害に被災された会員の方々や、多くの被災された方に改めて心よりお見舞い申し上げます。

また、昨年末に発生しました「インドネシア・スマトラ島沖地震、インド洋大津波災害」により被災された多くの方々にも重

ねて心よりお見舞い申し上げ、一日も早く行方不明の方々が発見され御家族の元に早く戻れますよう心より願っております。

日を追うごとに、その被害の大きさが大きくなり、犠牲者は15万人に達するとの見方もあり、その支援も急がれるところであります。

今後大きな課題は、伝染病などの発生と拡大であります。暑い地域であり、そういった問題が発生すると大変な状況となります。そういうことに又多くの人命が失われてしまう事のないよう積極的な対応と、取り組みをしてゆかねばならないと思います。

われわれロータリークラブとしても、人道的見地から何かできることを一人一人が考え、みんなの力を結集して取り組んで行かねばならないと思います。

残念ながら、被災された地域が大変広範囲にわたっていること。あまりにも多くの犠牲者が出ていることなど、難しい面が多々ありますが、国際ロータリーとして我々の力を結集すれば、きっとすばらしい社会奉仕ができるものと信じております。

今年は、いよいよ2月23日(水)に国際ロータリー設立100周年の記念すべき日を迎え、共に喜び合いたいと思います。

みなさんでお祝いをすると共に、改めてロータリークラブの原点を見つめ直し、われわれのクラブの目的、目標を確認し

合い新しいロータリークラブの幕開けとしたいと思
います。

また、本年3月には予めから予定されております、
我がクラブとの友好クラブであります台湾新竹扶輪
社の公式訪問がいよいよ具体的に動き出します。

台湾の方々が有意義な訪問と交流のできますよう、
よろしく願いいたします。

そしていよいよ50周年の実行委員長も石橋育於さ
んに決定しました。

渡邊年度への皆様方の絶大な御支援御協力もあわ
せてお願いいたします。本日の卓話は藤田説量パス
トガバナーにお願い致しました。どうぞよろしくお
願いいたします。

以上どうぞみなさま本年もよろしく願い申し上
げます

まとめに会員皆様方の本年の御多幸をお祈りし、
会長の年頭挨拶とさせていただきます。

幹事報告

いからしの里へサンタクロース

2004.12.22

当日は幹事、社会奉仕委員、山田会員、会田会員で
出席しました。



ニコニコBOX

渡邊喜彦さん

皆様、新年明けましておめでとうございます。本
年もどうぞよろしく願い申し上げます。今年も
皆様に良い年でありますように。

藤田説量さん

本年もよろしく願い致します。

小出子恵出さん

明けましておめでとうございます。世界が平和で
災害のない平穏な年になりますよう祈って。

山田富義さん

新年明けましておめでとうございます。初めて長
女と買物に行きます。よって早退します。

川瀬康裕さん

あけましておめでとうございます。都合により早
退させていただきます。

荻根澤隆雄さん

正月2日に孫と縁起担ぎに鶴を見に下田村荒沢に
行って来ましたが、白鳥でした。『残念』

本年もよろしく願いを申し上げます。

広岡豊作さん

毎度有難うございます。初例会のお弁当を作らせ
て頂き喜んでいきます。

高橋 司さん

藤田会員、新春卓話ありがとうございます。

小越憲泰さん

新年あけましておめでとうございます。本年もよ
ろしく願い致します。

年始めの藤田先輩の卓話楽しみです。

杉山幸英さん

皆様、明けましておめでとうございます。本年も
よろしく願い申し上げます。

68名×八ガキ代50円=3400円。先日のクリスマス
例会、多数の参加を頂きまして有難うございました。

早川昭雄さん

新年あけましておめでとうございます。今年は平
和な良い年になる事を祈願致します。

五十嵐昭一さん

あけましておめでとうございます。今年は災害の
ない良い年になりますように。

石月良典さん

あけましておめでとうございます。

藤田先生、よろしく願いします。

平原信行さん

新年あけましておめでとうございます。

渡邊会長、五十嵐幹事、もう半分ご苦労様です。

細井増雄さん

おめでとうございます。今年もよろしく。渡邊会長、
五十嵐幹事、あと半年ご苦労様です。

石橋育於さん

新年明けましておめでとうございます。

渡邊会長、五十嵐幹事、本年もよろしく願い致
します。

金子俊郎さん

明けましておめでとうございます。本年は平穏な
年であるよう祈るものです。

橘 直樹さん

明けましておめでとうございます。さるものは追
わず、ケッコーな年になるように。本年も宜しく
お願い致します。

中村和彦さん

新年おめでとうございます。今年はいい事があ
りますように。

松谷昊吉さん

明けましておめでとうございます。今年が皆さん

にとって良い年でありますように。

石塚欣司さん、日戸平太さん、清水良一さん、齋藤弘文さん、船越正夫さん、五十嵐力さん、会田二郎さん、熊倉昌平さん、捧賢一さん、外山雅也さん、長谷川有美さん、吉井俊介さん、渋谷正一さん、近藤雄介さん、成田秀雄さん、斉藤真澄さん、樺山仁さん、五十嵐寿一さん、丸山行彦さん、明田川賢一さん、松永一義さん、伊藤寛一さん、小柳直人さん、佐野勝榮さん

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

1月5日分 ￥ 53,000

今年度累計 ￥ 517,000

卓 話

「雑談」

藤田説量会員



昨年種々なことがございました。災害にお遭いになりました方々のご苦勞は本当に大変だなという気持ちが拭えない訳で、苦勞を克服されているお姿に敬意を表するものでございます。

渡邊会長はロータリー100年目の節目の会長で、大きな立場でロータリー史に残る訳でございます。さらに種々な災害のための緊急な金集めの問題が押し寄せて参り、渡邊会長に同情申し上げ、私共も協力して参りたいと思います。

昨年末、奈良の女児殺害事件が解決を見せ、紀宮清子様のご婚約の発表があり、明るいニュースでありました。

平成3年11月3日、私が赤坂離宮の園遊会にお招きを受け、天皇陛下、皇后陛下並びに皇族方からお言葉を参列の一人一人に頂戴し、紀宮様がにこやかに「ご苦勞でございます」とお言葉を頂いたことを思い出し、良かったなとテレビを拝見しました。

私事ではありますが、昨年は私にとりまして大変難儀な年で、8月10日に2時間ほどの法要を勤めまして、翌日ピタリと声が出なくなりました。お医者様に行きましたら、声のことよりも、体のあそこが悪い、ここが悪いと診断書と紹介状を頂き、明日病院で手術をしてもらって下さいと宣告を受けました。「私は手術をする時はお医者さんを信用しない訳ではありませんが、お二人以上のお医者さんから診てもらってから切るか切らないか決めるべきだ」と信念がありまして、何人も人を助けた実績がございますので、次の日、東京ガンセンターへ行って診察を受けました。そのガンセンターも何かハッキリしない診断でございまして、「天下のガンセンターならハッキリするだろうと思って来ました」と言いましたら、「お役に立たず済みません」と言う挨拶で、未だにそのまま

にしております。

その時、銀座を歩いておりましたら、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、2丁目あたりに、アスターと言う中華料理屋がございます。私が学校を卒業する時、送別会をやってもらった思い出がありまして、懐かしく寄りまして、ラーメンを一杯食べ、帰りに銀座百店という有名店を紹介する月刊雑誌を1冊もらいまして、その中の対談記事で柳屋小三治さんが声が出なくなった時、友人がプロポリスという薬をくれた。だまされた心算で飲んでいるうちに大変効果があったと書いてありましたので、私も高価な薬でしたが求めて帰り、命に変えられないと飲んでみました。それが効いたかどうかハッキリいたしません。3、4年前から左脚がむくんでおりましたのが、1日か2日でむくみが取れました。アア、どこかに効くんだなと、未だにその薬を飲み続けております。

我々の世界では因縁と申しますか、そうした妙なことがございまして、私も小三治などと言う落語家は知りませんが、その経験記事を読みまして、私が現在ここにある訳でございます。世の中面白いものでございますね。

雑談でございますので、次はお好み焼の話です。昨年ガバナー会が広島でありまして、体調が悪いので行くのを止めようかと考えておりましたら、周りの者から引込み思案になると段々ダメになるから無理しても行った方が良いと勧められ、その「おだて」に乗って出掛けました。

私も広島には新潟地震の頃いた経験もあり、その後、2、3回行っておりますが、今回行って感じたことは、街路樹のある道巾の広い通りを電車が通り、原爆が落ちた当時は75年間草も生えないと言われた広島が立派な街に甦り感嘆いたしました。

人が努力し、お互いに助け合って街づくりをすれば、あの大きな災害から立ち直り、百何十万人の街に発展しました。

私が広島に行くと言いましたら、広島へ行ったらお好み焼を食べてこいと言われました。

ご承知のようい広島の名産は、広島の牡蠣、広島筆、柿、広島菜の漬け物、私のところでは広島に少し因縁がございまして、時々送って頂いて知っている訳です。

タクシーに乗りまして運転手さんに、今広島で一番の名物は何ですかと聞きましたら、そりゃーお客さんお好み焼ですよ、お客さんのおっしゃる紅葉饅頭も有名だけど、お好み焼の方がダンゼン群を抜いております。広島はお好み焼で「町おこし」をしておりますと。

それで時間をつくりまして、お好み焼を試みてみました。丁度昔の我々が子供時代にお祭の宵宮にドンドン焼がありました。うどん粉に赤エビとかノリとかデンプが入り、そこへソースを塗って食べた、あの昔懐かしいドンドン焼に少し手を加えて美味しくしたような郷愁を感じる味で美味でした。そのお好み焼が奇想天外なものでなく我々の記憶に少し変化を付けたものが成功の秘訣だと感じました。

話は変わりますが、京都に「たつ吉」という陶器屋があります。その若社長が「アダムとイブ」と言うシリーズ製品を作り始めて、コップが斜めにかしがっていたりする妙なものを並べておりました。私は拝見しまして番頭さんに、売れるのはこれとこの2点位しか売れないだろうと言ったら、その通りでございますと。

あまり変化を付け過ぎると、一般大衆が受け入れないということの証左であります。

その「たつ吉」が倒産しかけて若社長が引退し、前の社長がカムバックして立て直しました。

もう1つの例を言いますと、東京半蔵門通りに丹波屋という「うなぎ」屋がありました。私の宿舎に近かったものですから時々利用しておりましたが、その若社長がフランスでフランス料理の勉強をして参りまして、「うなぎ」のフランス料理を始めた訳であります。妙なことを始めたなと思っておりました。暫くしてどんな様子が行ってみようと思前を通りましたら、店に下がっていた大きな提灯が見当たりません。車を廻してみたら、やはり無い。新しいうなぎのフランス料理を取り込んだばかりに東京で一番古い「うなぎ屋」を潰してしまっただけです。あまり変化を付け過ぎますと難しいものだと感じました。

ロータリーの話も少しはしなければなりませんので、次に移りますが、ロータリーの基本は職業奉仕から始まるものでございます。自分の職業を愛するがゆえに、自分の職業を盛んにするために努力をすることが1つの目標ですが、やり方だと考えます。

例として釣銭という話をします。普通釣銭は売った物の値段と受け取った代金の差額を返すのが釣銭ですが、私は本来意味が違うのではないかと考えております。

関西には年頃の娘がおりますと釣書というものを書きます。魚を釣る釣という字に書と書いて「釣書」娘の履歴と写真を添えて、家の娘が年頃になりましたから良い婿さんがありましたら紹介して下さい、理解してもらいたいというのが釣書です。

従って、自分の仕事を理解してもらうのに、どういう努力をするか、それが本来の釣銭の意味だということ、吉田のロータリークラブのメンバーを京都に案内した時、個人タクシーのなかで話をしました。

帰ってきましたら、その時乗せてもらった個人タクシーの運転手さんが、私のところへ「おはぎ」を1箱送って参りました。これが私の釣銭でございますと添書きされておりました。可愛いものですね。

京都の商売の中で感じた事を申し上げます。京都へ参りますと私は「うどん」を昼食に食べる習慣がございます。美味しいし、安いし。ある日うどん屋へ入って席につこうとしたら、後の席に座っていた若者が私に目礼をしてくれました。どこの誰かわかりませんが、私も目礼を返してうどんを食べていたけれど、気になるので、どちらでいらっしゃいますかとお尋ねしましたら、私は四条通りにあるハンドバッグ屋の息子でございます。そこで私は貴男のお母さんにはお世話になっておりますと。お母さんはとうに亡くなっておられましたが。

その息子さんは先客ですから、先に食事を済ませて帰られました。やがて私も食べ終わって代金を払おうとしたら、先程の方から勘定を頂いておりますと。さて困りました。うどんを食べ逃げするような感じで、丁度お返しする品々も必要と、そのハンドバッグ屋に寄って買物をして義理を済ませました。

1,000円のうどんが高い買物になりました。それでも腹が立たなかったという事を申し上げたいのです。

もう1つは、京都の骨董商の社長と知り合いでありますので、お逢いしたいと時間を約束して参りましたら、お昼時近く、社長がまだ来ておりませんという事で、僕は2階の店で食事をしますからと事務員に伝えて、食事を済ませ代金を払おうとしたら、下のお店の人からお代を頂きましたと。これも金を払われてしまった訳であります。

しかし、この店の茶碗は500万円以下のものは無いのです。甚だしきは白洲正子さんの所から出た長次郎の茶碗1億4千万円、食事の代金を払ってもらって買う訳に行きませんけれど。

いわゆる釣銭の考え方は、人の気持を掴むような努力がそこにあるのではないかと、勝負をしてみせる、あるいは自分から打ち込んでみせるという努力があって、初めてお客の気持を掴むことが出来るという感じを持った訳でございます。

私が商売の話をするのは可笑しいのですが、これからのロータリーの職業奉仕というものは、今一歩踏み込んだ次元の高い考え方から始まり、そこに行き着かなければロータリーの職業奉仕ではない。

それは自分の職業が尊いものである、自分の職業を愛するがゆえに利害損失を超えた自分の命をそこに現すというような気持ちがあって、初めて職業奉仕というものが成り立つのではないかと考える次第であります。

次週例会 1月19日 会員卓話 阿部吉弘会員

次々週例会 1月26日 ロータリー理解推進月間

